「この人 65」

石川セツコ 60歳 東京都

編集部 滑稽俳句を始められたのは？

石川 もともとは川柳に興味があり、時事川柳をタウン誌に投稿していましたが、鈴木真砂女の句に出会って、季語が生き生きしていることに驚きました。区の俳句講座を受けるようになったのですが、面白い句はほとんど評価されないことに失望していました。そんな時に、滑稽俳句協会の存在を知りました。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

石川 日常の中に滑稽を見つけた時の「やったあ！」感、あるいは、滑稽にすることができた時の「してやったり！」感は、他のものでは味わえません。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

石川 滑稽がなくても俳句はできます。しかし、あると句に艶が出て、品位のある笑いは人間の知性を最も満足させるものだと思います。滑稽俳句に出会えたのは、一つのご縁です。このご縁が、今後の人生の色々な場面で役立ち、人生を豊かにしてくれると思います。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

石川 自然、素直、二つとも難しいのですが、これがいい俳句を作る最高の条件だと思います。

<代表句>

初鏡見なかったことにして伏せる
きっかけはおでんの中で何が好き
雲海に注意されたる軽装備
毛糸玉編むつもりだった過去がある
水澄むや落したスマホじっと見る